

武庫川女子大学「女性研究者研究活動支援事業の取り組み」

武庫川女子大学は、大学5学部11学科、大学院11専攻を有する女子総合学院である。学院立学の精神に基づき、高い知性と善美な情操と高雅な特性を兼ね具えた有為な女性の育成を教育目標とし、大学院では高度な応用力と専門性を有する職業人の育成及び自立した研究者の育成に取り組んでいる。本学における女性研究者の割合は大学全体で33%（提案書作成時）、上位職（教授）で24.3%である。本事業では、女性研究者が研究活動を継続するために必要な環境整備を行うとともに、若手女性研究者の早期自立や国際的に活躍する女性研究者の育成により、上位職を含む女性研究者数の増加を目指す。

<取り組み内容>

本事業は学院長・学長のリーダーシップの下、全部門と連動して実施できる体制をとっている。女性研究者支援センターはプロジェクト推進室を置き、4部門の活動を具体的に実施・推進する。また男女共同参画室と連携して、事業の推進に伴う制度や要望の提案を行っている。

【環境整備】

- ① 研究支援員制度・代替講義制度を実施し、現在まで延べ14名の利用があった。
- ② 女性研究者の出産・育児・介護などのライフイベントと研究活動に関する悩みや不安を解消するために女性研究者相談窓口を開室。
- ③ 男女共同参画推進室と連携し、託児施設「ラビークラブ」を開設。
- ④ 育児・介護に関するニーズ調査を実施し、それをもとに育児・介護のセミナーを開催。

【若手研究者支援/裾野拡大】

- ① 「英語論文の書き方セミナー」や「理系論文の書き方セミナー」「外部資金の獲得について」などの若手研究者の研究活動を支援するスタートアップ支援講座を開催。
- ② 女性研究者のロールモデル提供セミナーを実施。
- ③ 本学の卒業生に執筆を依頼し、研究者のロールモデル集を発行。
- ④ 女性研究者と大学院生が世代間交流を行う若手研究者交流会を実施。
- ⑤ 本学のアメリカ分校であるフォートライトキャンパスで近隣校との交流会を開催。

【意識啓発/広報活動】

- ① 上層部や研究者の意識啓発を目的とした意識啓発セミナーを開催。
- ② ワークライフバランスガイドブックを発行。
- ③ ホームページの管理・運営の実施。
- ④ ニュースレターを発行し、学内外への広報活動を実施。

【他大学連携・その他】

- ① 関西圏の女子大学の連携による女性研究者育成支援事業を立ち上げるために合同シンポジウムを開催。
- ② 公益財団法人兵庫県勤労福祉協会より「仕事と生活のバランス企業表彰」を学校法人として初めて受賞。

【達成目標】

女性教員の在職比率の達成目標値、40.6%（全体）を目標に、常任理事会・評議会で実体を説明し、事務部門と連携して、学部学科の人事への反映を後押しするための実施体制を作り支援した。

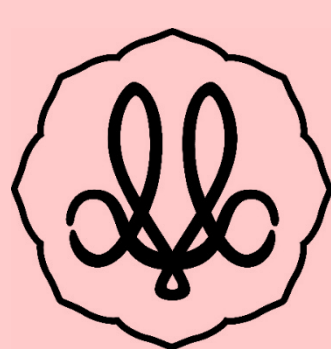
【連絡先】 武庫川女子大学 女性研究者支援センター

TEL: 0798-45-3737

FAX: 0798-45-3535

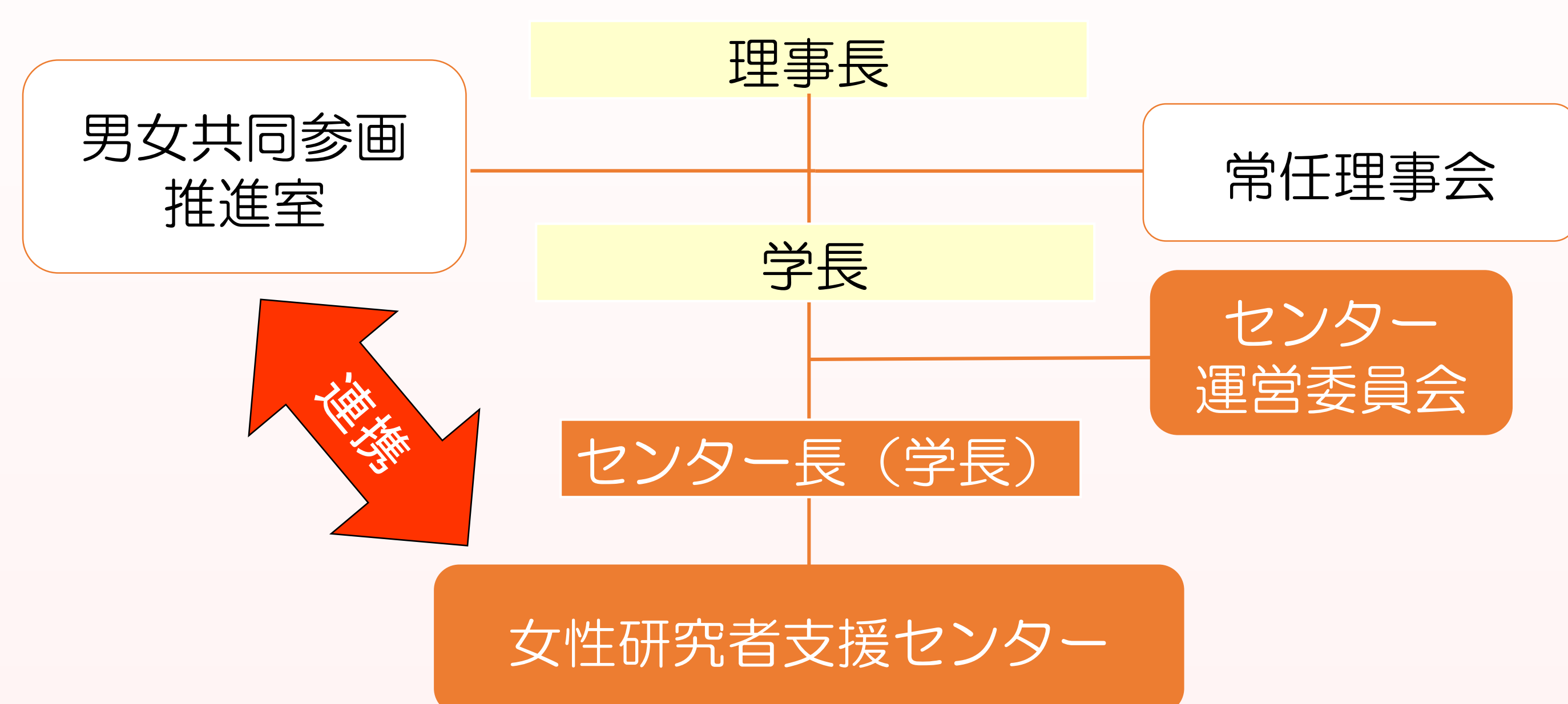
E-mail: female_r@mukogawa-u.ac.jp

URL: http://www.mukogawa-u.ac.jp/~female_r/

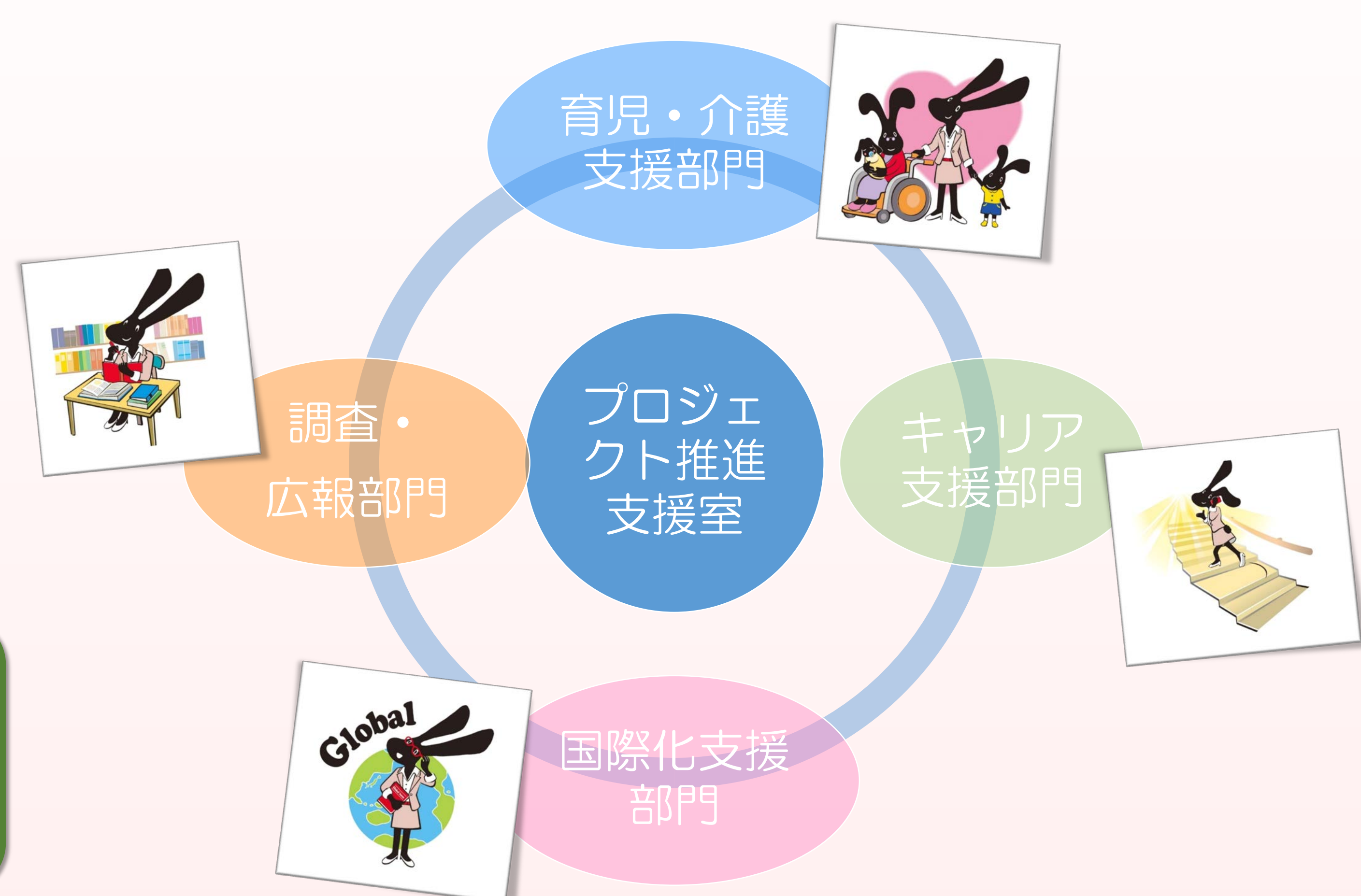


武庫川女子大学「女性研究者研究活動支援事業の取り組み」

組織図



女性研究者支援センター支援体制



取り組み内容

本事業は学院長・学長のリーダーシップの下、全部門と連動して実施できる体制をとっている。女性研究者支援センターはプロジェクト推進室を置き、4部門の活動を具体的に実施・推進する。また男女共同参画室と連携して、事業の推進に伴う制度や要望の提案を行っている。

環境整備

- 研究支援員制度
- 代替講義制度
- 女性研究者相談窓口の開室
- 学院内保育ルーム「ラビークラブ」の開設
- 育児・介護セミナーの開催

利用者の感想：
子どもの体調不良など突発的なことがあっても「対応できる」という安心感をもって働くことができた

育児・介護相談（月1回）キャリア相談、留学相談（随時）

保育サービスの様々な利用と本学の育児支援について、

介護保険サービスの上手な利用方法について など

研究支援員制度利用者数						
	平成24年度		平成25年度		平成26年度（4～10月）	
利用事由	育児	介護	育児	介護	育児	介護
利用者数	2名	0名	5名	0名	7名	0名

＜研究支援員制度利用の様子＞



＜学院内保育ルームラビークラブ＞

反映

ニーズの把握

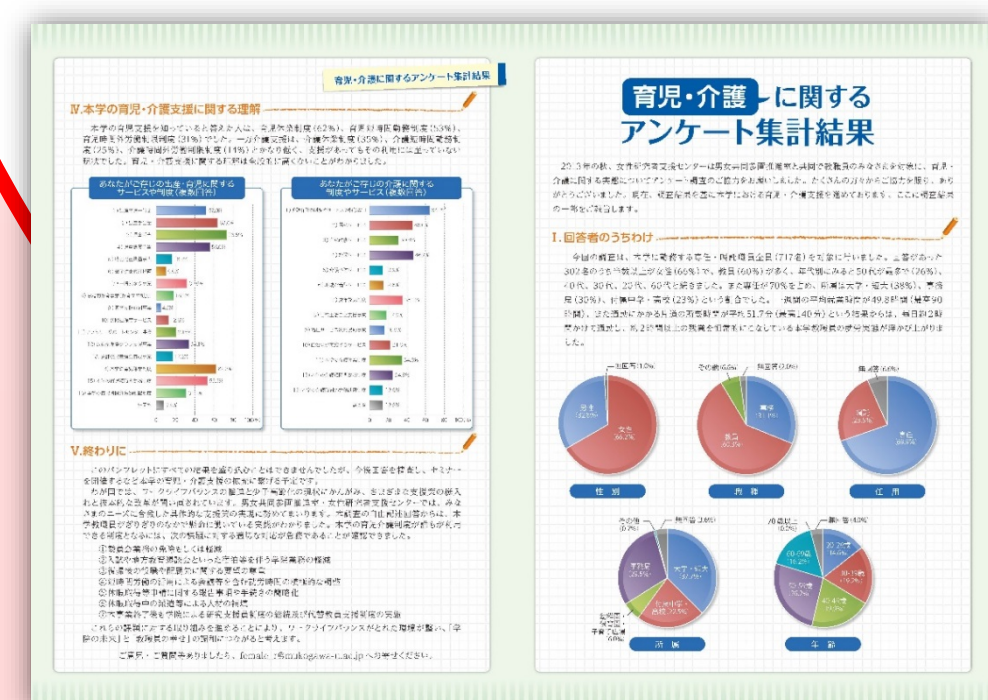
- 第1回、第2回女性研究者研究活動支援事業アンケート調査
- 育児・介護に関するアンケート調査
- 研究活動の国際化に関するアンケート調査

ニーズ調査から見えてきた課題

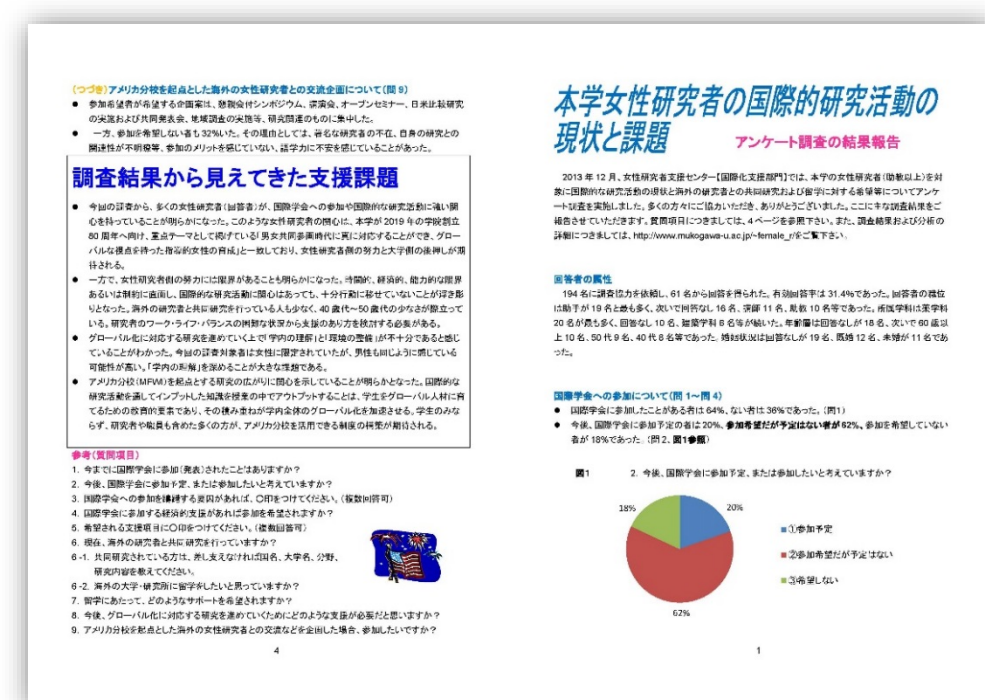
- 採用、昇格の評価基準の具体的な開示
- 国際学会での発表や留学を希望する割合が多いが時間が見つけにくい
- アメリカ分校を起点とする研究の広がりに関心有
- 介護制度の認知度が育児の制度に比べて低い
- 学内保育施設の需要有

反映

反映



＜育児・介護に関するアンケート調査結果報告＞



＜研究活動の国際化に関するアンケート調査結果報告＞

若手研究者支援/裾野拡大

- スタートアップ支援講座の開催

英語プレゼンテーションセミナー、理系論文の書き方セミナー など

- ロールモデル提供セミナーの開催

夫婦で研究を続けていくには など

- ロールモデル集の発行

研究者を続けている本学の卒業生に執筆を依頼

- 若手研究者交流会の開催

研究テーマの種探しなどをテーマに開催

- フォートライトキャンパス（アメリカ分校）での交流会

参加者の感想：海外の女性研究者との交流から、今後さらに、大学院生等へ発展させるなどの希望が生まれた



＜ロールモデル提供セミナー＞



＜フォートライトキャンパスでの交流会＞



＜ロールモデル集＞



＜スタートアップ支援講座＞



＜若手研究者交流会＞

意識啓発/広報活動

- 意識啓発セミナーの開催

大学における男女共同参画の実現 など

- ワークライフバランスガイドブックの発行

制度が1冊にまとめられていてわかりやすいと好評

- ホームページの管理・運営

- ニュースレターの発行

イベント実施の報告や

本学の若手女性研究者紹介などを掲載



＜ニュースレター＞



＜ワークライフバランスガイドブック＞

他大学連携/その他

- 関西圏の女子大学

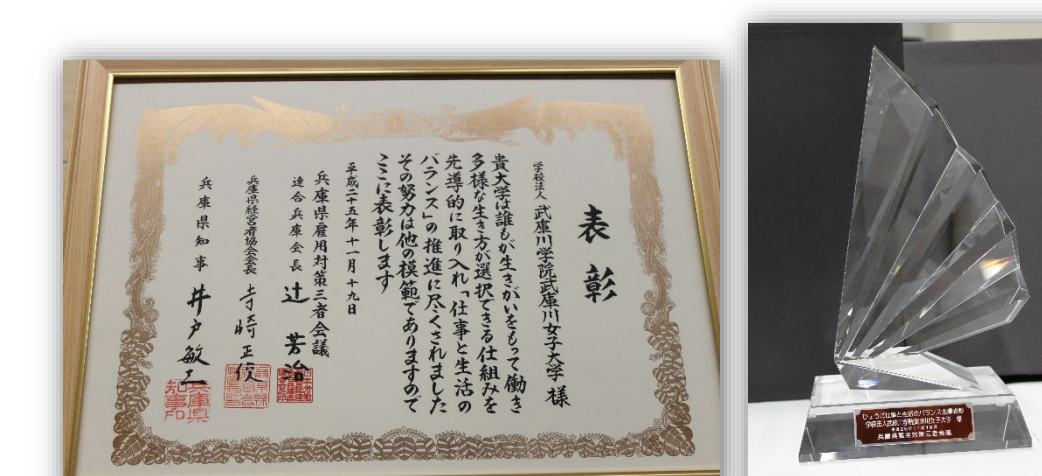
合同公開シンポジウムの開催

- 公益財団法人兵庫県勤労福祉協会

仕事と生活のバランス企業表彰を受賞



＜関西圏の女子大学合同公開シンポジウム＞



＜仕事と生活のバランス企業表彰＞

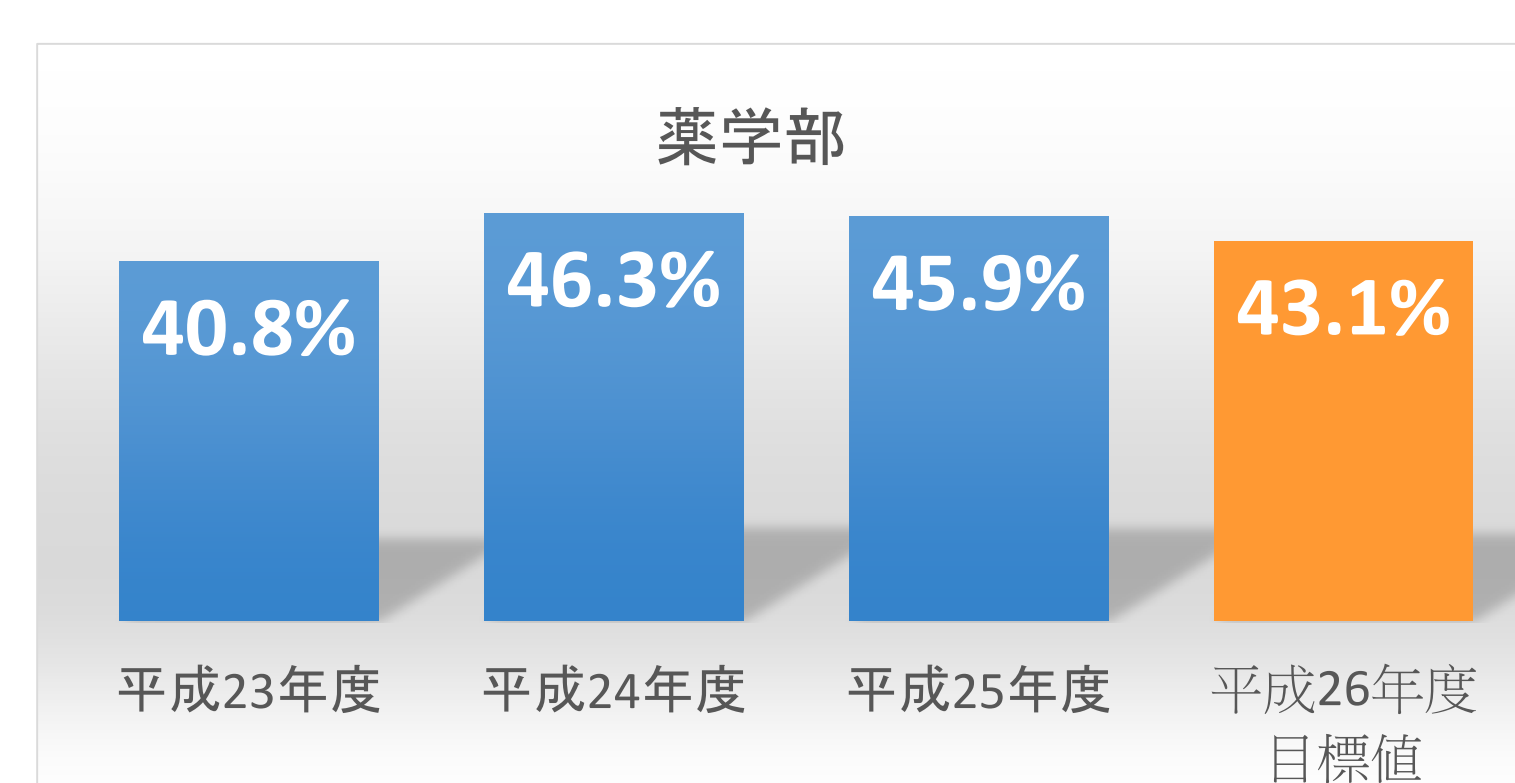
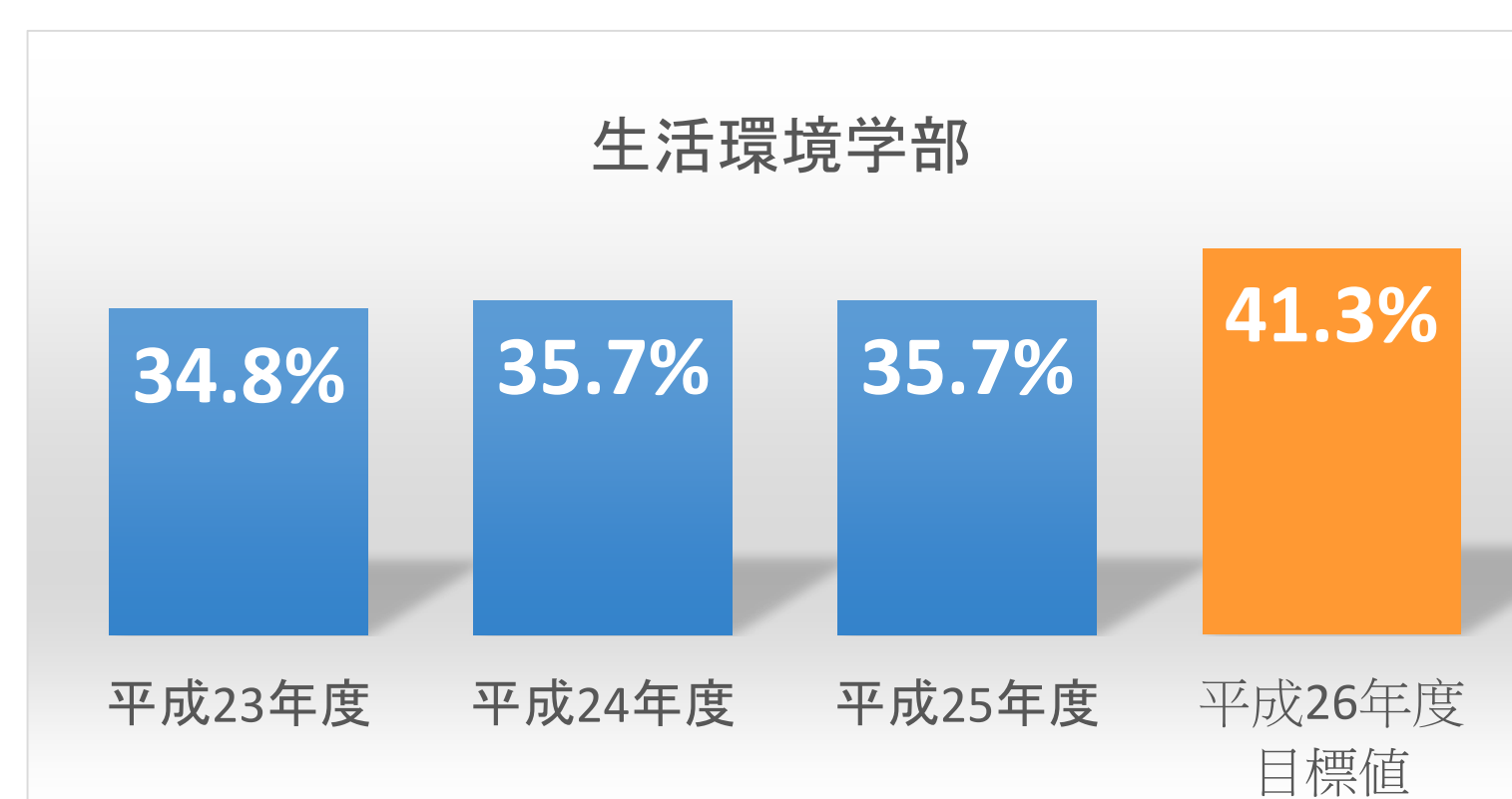
達成目標

- 女性研究者の在職比率を全体で40.6%へ達すること
- 理系学部的女性教員の在職比率を、生活環境学部41.3%、薬学部43.1%へ達すること

目標を達成するための取り組み

- 常任理事会・評議会で実体を説明し、事務部門と連携して、学部学科の人事への反映を後押しするための実施体制を作り支援した
- 公募採用資料の中にポジティブアクションによる一文を採用した

理系学部女性教員の在職比率



全学部女性教員の在職比率

